

1. 合併の動きの把握

今回の市町村大合併に際して力を入れたのは、市町村合併の動きに関する情報収集です。全国でどのような市町村合併の動きがあるか、地方紙をはじめとする新聞記事、市町村のホームページ、市町村への直接の問い合わせなど、さまざまな方法で最新情報の入手を図り、出版物に反映できる体勢を整えてきました。

2. 編集作業にあたって

(1) 本当に合併が行われるの？

今回の市町村合併では、合併の動きはあったものの正式な合併協議会の設置までいたらなかったもの、合併協議会は設置されたが合意が成立しなかったもの、合併協議会では合意したものの市町村議会で否決され協議会も解散したものと、さまざまな段階で中止になる場合があります。このため編集部では、都道府県議会で可決され知事が総務大臣に申請した結果、官報に告示された段階を最終決定とみなし、原則としてこの段階をもってはじめて地図帳に記載するという方針で編集作業を進めました。

(2) 合併はいつ？

新市町村がいつ合併するかは編集作業に大きな影響を与えます。編集部では前述のように、最終決定と考えられる官報告示を待って地図に記載す

るようにしていましたが、教科書の地図帳の場合は文部科学省への申請時期との関係、市販の地図帳の場合は店頭での発売時期との関係で、いつ編集作業を締め切るかが悩みの種でした。

(3) 新しい市町村名は？

市町村合併が成立し、新しい市町村名を地図に記載するに際して、間違いやすい地名など注意が必要な場合も多くありました。たとえば宮城県に九つの町が合併し登米（とめ）市という市が生まれましたが、登米市を構成する旧自治体の中に登米（とよま）町があったため、市名にふりがなをふるさいには注意が必要でした。

(4) 新市役所、新町村役場はどこに？

地図では市役所や町村役場の位置にその都市の記号を記載するため、新庁舎の場所がどこになるかは地図編集上、大きな問題です。新庁舎は合併する市町村のいずれかの庁舎があった場所に置かれるのが一般的ですが、なかには新しい場所に新庁舎が設置される場合もありました。山梨県北杜市（旧須玉商業高校の旧校舎を利用）がその例です。また市町村名が変わらなくても、合併で市役所、町村役場の場所が変わる場合もありました。青森県七戸町（合併相手の天間林村役場が新しい七戸町の役場になった）がその例です。

